

④ 各科実技教官出勤日一覽表

彫刻部	西洋畫科	日本畫科	區分		各科教官(除學科專門教官) 出勤日一覽表	
			午前	午後	大正元年九月現在	
黑白高 岩井村	田中長 辺村原	松結福 岡城井	小堀 (岡田秀)	寺崎 松岡	月	曜
					午	曜
(黒岩)	田中長 辺村原	藤和黒 島田田	松岡	結城	火	曜
					午	曜
黑白 岩井	田中長 辺村原	鶴田	結城	水	曜	
				午	曜	
沼白高 田井村	田中長 辺村原	岡田福 秀井	小堀 (岡田秀)	寺崎 鶴田	木	曜
					午	曜
沼白高 田井村	田中長 辺村原	岡田福 秀井	小堀 (岡田秀)	寺崎 鶴田	木	曜
					午	曜
黒沼高 岩田村	田中長 辺村原	藤和黒 島田田	松岡	岡田秀	金	曜
					午	曜
(黒岩)	田中長 辺村原	藤和黒 島田田	松岡	結城	金	曜
					午	曜
沼白高 田井村	田中長 辺村原	福井	小堀 (岡田秀)	寺崎 福井	土	曜
					午	曜
黒沼白高 岩田井村	田中長 辺村原	松岡	結城	福井	土	曜
					午	曜
学級受持 第一年沼田、黒岩、第二年白井、 黒岩、第三年沼田、黒岩、第四 年白井、黒岩、卒業期高村、黒 岩、研究生高村、黒岩、(黒岩) ハ當日師範科ノ授業ヲ担当ス	中村助教授ハ本表出勤日ノ内ヲ以 テ塑造部ニ課スル木炭画ヲ担当ス 當ス (長原)ハ當日師範科ノ授業ヲ担 當ス	第一教室福井、第二教室寺崎、 結城、第三教室小堀、松岡(岡 田秀)ハ当日教員志望者ノ実技 又ハ他ノ学科担当ヲ示ス	学級受持 第一年寺崎、結城、第二年小堀、 松岡、第三年福井	備	考	

金 工 科	圖 按 科	牙 彫 部	同 上 部	木 彫 部
(神矢) 平田 八卷 石田 海美 同人 同人 同人	小場 千頭 岡田 島田 大沢 同人 同人 同人	三浦 石川		畑 竹内
(神矢) 平田 八卷 石田 海美 同人 同人 同人	小場 千頭 岡田 島田 古宇田 同人 同人 同人	三浦 石川		畑 竹内
(神矢) 平田 八卷 石田 海美 同人 同人 同人	小場 千頭 岡田 古宇田 大沢 同人 同人 同人	鶴田		鶴田
神矢 八卷 石田 海勝 同人 同人 同人	小場 千頭 岡田 岡田 島田 同人 同人 同人	三浦 石川		畑 竹内
平田 神矢 八卷 海美 同人 同人 同人	小場 岡田 島田 古宇田 同人 同人 同人	三浦 石川		畑 竹内
神矢 八卷 海勝	竹内 小場 千頭 島田	三浦 石川		畑 (竹内)
火曜日第一、第二年ハ繪画ヲ第 三、第四年ハ鍍金ヲ課ス (神矢)ハ當日化学室ニ出勤ス		水曜日ハ繪画授業ニ付出勤セサル コトニナシアルモ卒業期又ハ研究 生ノ授業ノ都合ニ依リ一名出勤ス ルコトアルベシ		水曜日ハ繪画授業ニ付出勤セサル 事ニナシアルモ卒業期又ハ研究 生ノ授業ノ都合ニ依リ一名出勤スル コトアルベシ (竹内)ハ當日図按科彫塑ヲ担当ス

鑄造科	漆工科	師範科
櫻岡同人	白山同人	白濱同人
津田同人	石井同人	波根同人
坂口同人	堀井同人	鶴田同人
大島同人	堀井同人	黒岩
櫻岡同人	白山同人	波根同人
津田同人	石井同人	原田(鶴田)
坂口同人	堀井同人	(鶴田)(鶴田)
櫻岡同人	石井同人	白濱同人
津田同人	堀井同人	波根同人
坂口同人	橋本同人	鶴田同人
櫻岡同人	石井(石井)	長原同人
津田同人	堀井同人	石井
坂口同人	石井同人	波根同人
櫻岡同人	白山同人	白濱同人
津田同人	堀井同人	波根同人
坂口同人	堀井同人	黒岩同人
櫻岡同人	石井	原田同人
津田同人	橋本	鶴田
坂口同人		
	(石井)ハ當日(一時間)師範科ノ授業ヲ担当ス 授業受持時繪白山、堀井、調漆石井(一、二、三年、調漆専門ノ卒業期)、橋本(四年)	(鶴田)ハ當日日本画科又ハ彫刻科木、牙彫部ノ授業ヲ、(白濱)ハ教員志望者ノ學科ヲ担当ス

(自明治四十四年至大正元年 庶務雜書類 庶務掛) 表中岡田信一、岡田三三、岡田三郎助、海美、海野美盛、海勝、海野勝珉

⑤ 川端玉章辞任

「東京美術学校近事」(517頁)に記されているとおり、明治四十五年四月二日、川端玉章は病気のため辞職し、ここに後任人選の問題が生じた。正木直彦は再び竹内栖鳳(京都市立美術工芸学校教諭より明治四十二年四月創立京都市立絵画専門学校教授に転任)を勧誘すべく、四月上旬に京都へ赴いた折りに栖鳳と面談したが、栖鳳は辞退した。本学芸術資料館所蔵正木直彦宛書簡の中の栖鳳の書簡(明治四十五年

四月二十九日)はその返事を認めたもので、栖鳳はかつて招聘問題で煩わせたことのある柴田源七(438頁参照)とも相談したりして熟慮したが、前々から作家としてもっと製作に親しみたいと痛感していた上、勤務時間にも耐えられそうにないので、折角の御勧誘ではあるが辞退すると述べている。栖鳳は明治二十四年の岡倉覚三の勧誘と同四十一年および今回の正木直彦の勧誘と三度本校からの勧誘を断った。そのために、玉章の後任は福井江亭がつとめる形となった